

住んで良かったと思えるまちづくりを目指して

### report.3 菊池 よしひとの9月定例会 一般質問

9月定例会一般質問では大きく分けて3問の質問をしました。その内容の一部をご報告させていただきます。

#### ▶ 蓮田市水道事業について

多くの課題がある蓮田市水道事業ですが、今回は「漏水と有収率」、「管路更新と老朽管対策」、「市内事業者を守るための入札制度」に絞って質問をしました。

**質問** 漏水の現状、有収率は。（有収率とは給水する水量と料金として収入のあった水量との比率です。）

**答弁** 漏水は平成30年度が278件、令和元年度が270件です。令和元年度の270件のうち、漏水調査で発見したものは69件で、その全てについて早期の修繕を実施しました。有収率は平成30年度84.1%、令和元年度86.2%です。



蓮田市で使用している水道管の模型

**質問** どのような材質の配管からの漏水が多いか。

**答弁** 比較的多いのは古いポリエチレン管です。

**質問** 有収率を下げる漏水の原因は本管からの取り出しの部分で、古いポリエチレン管及び継手などという事でよいか。

**答弁** 古いポリエチレン管、継手部分などの漏水が比較的多くなってはおりますが、その他の部分での漏水も少なくはありません。有収率は洗管作業などの事業水量など漏水以外の要因も関連しておりますので、特定の要因に限定することは難しいものです。

**質問** 令和元年度86.2%との事だが、有収率に含まれない13.8%は量にするとどのくらいになるか。

**答弁** 約950,000m<sup>3</sup>となります。この中には漏水量の他、洗管作業などの水道事業用水量なども含まれております。

**質問** 令和元年度の管路更新の実績、及び管路更新についての課題は。

**答弁** 令和元年度の実績は874mです。重要管路の耐震化工事と並行して、漏水対策としての管路更新工事を行っています。重要管路の耐震化と同時進行であることから、なかなか思うように進める事ができないのが現状です。

**質問** 管路更新と老朽管の増大に関して今後の見通しは。

**答弁** 管路更新は着実に進めておりますが、それを上回るスピードで老朽管は増えていくと思われます。

**質問** 漏水対応と基幹管路の更新など何人の職員で対応しているか。

**答弁** 漏水の対応、管路更新などの管路に関わる担当者は2名です。その他に工務担当のリーダーが浄水施設も含めたすべての工事関係業務を統括しております。

**質問** 耐震化としての管路更新、漏水対策の管路更新を今以上に速く進めるべきだと思うが市の考えは。

**答弁** 同感です。以前は不明水の対応などを行ってきたが、その効果がでてきました。管路更新については、今後前向きに対応していきます。

**市内事業者を守るための入札制度へ変更を求めました。**

水道工事入札については、蓮田市の昨年度の発注金額について（4件、264,000千円）、市内事業者の参加状況、現在の入札制度などについて質問をしました。

私は現在の入札制度では今後、市内事業者で蓮田市の水道工事を施工する事業者が無くなってしまうのではと危惧しています。特に設計価格が1000万円を超える案件の最低制限価格の引き上げ（反ダンピング防止策）、設計価格が1000万円以下の場合最低制限価格の設定、ゼロ債務入札に関しては、今後徹底して議論をしてまいりますのでよろしくお願いします。

他に、小・中学校大規模改修事業及びトイレ改修について、生活道路及び幹線道路改修・維持管理について質問をしました。

一般質問の議事録については 蓮田市のホームページ→市政情報→市議会→会議録の検索と閲覧でご覧になれます。

### report.4 はたくにおの9月定例会 一般質問

#### ▶ JR 蓬田駅等の利便性の向上について

**質問** 夕方ラッシュ時の混雑緩和のために、また子供連れの親子、高齢者や障がい者等にも優しい、下りホーム直結の簡易改札の設置については、スピード感をもって実現すべき。JR東日本との交渉経過は。

**答弁** 旧駅舎（現在の駅西口連絡所）の敷地利活用などについて、JR東日本内で勉強を始めていると聞いており、市としても様々な機会を利用してJR東日本と情報交換を行っています。質問の趣旨を踏まえ一生懸命努力してまいります。



**質問** 蓬田駅近くの踏切の遮断時間の短縮について、JR東日本の取り組みは。

**答弁** 速度の異なる列車を判別し、警報開始時点を変えることで踏切の遮断時間を短縮することができる「踏切警報時間制御装置（通称「賢い踏切」）」は、東北本線に26か所、うち5か所が蓮田市内に設置されているとのことです。市としては、今後とも、JR東日本と情報・意見交換を行い、踏切の課題解消に努めてまいります。

#### ▶ 防災対策について

**質問** 昨年の台風19号では、床下浸水したり多くの市民が自主避難をした。その後に講じた防災対策は。

**答弁** 昨年の台風19号で床下浸水した地区などへの対応策のほか、情報伝達手段としてテレビ埼玉のデータ放送サービスの利用の開始、「自主避難所開設・運営マニュアル」や「避難所における感染症対策マニュアル」の作成、避難所における段ボール間仕切りやマスクなどの衛生対策用品等の備蓄を図りました。

**質問** 防災情報の的確な周知のために、さいたま市の「防災ハンドブック」のようなものを検討しては。

**答弁** 防災情報については、住民1人1人に理解していただく事は大変重要なことと認識しており、さいたま市などの先進自治体から情報収集するなど、調査研究したいと考えております。

**質問** 避難行動要支援者に関する個別計画の作成について、現状と推進体制は。

**答弁** 平成29年1月現在で情報提供に同意した要支援者692名について、約半分の自治会から個別計画書を提出していただきました。個別計画書の更新を含め、引き続き自治会等のご協力をいただきながら進めたいと考えています。なお、本年8月末時点の同意済み要支援者は1,112名です。

#### ▶ 小規模事業者等支援給付金事業について

**質問** 補正予算には、今回拡大する給付対象者への給付金1千万円が計上されていない。なぜか。



**答弁** 現行の事業予算（市内事業者を対象とした小規模事業者等支援給付金）で対応可能と判断しました。

**質問** 予算が余るのなら、市内の非常に困っている商工業者の方に第二弾の給付金を考えてみてはどうか。市内事業者を優先的に配慮すべきで、その方がより給付目的が明確であり、市民の理解が得られるのではないか。また、現在の執行部の事業案では、制度設計の問題に加え、予算と事業内容が合っていない。市の考えは。

**答弁** 市としては様々な新型コロナ対策を行っていて、本事業は小規模事業者等支援の枠の中で考えた結果で必要な支援であると考えており、市民の理解が得られるよう努力します。なお、今後については、いろいろな状況の中で判断したいと思っております。